

【飲酒が関連した救急統計について】

郡山地方広域消防組合管内では、過去5年間（2018年（平成30年）から2022年（令和4年）まで）に1,842件の飲酒が関連した救急事案が発生しています。

急性アルコール中毒だけでなく、飲酒により正常な反応ができなくなることによって転倒して受傷したケースも少なくありません。

新年度を迎え、また、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことで、飲酒の機会が増えることが予想されることから、このような事故防止を図るため、以下のとおり救急統計をまとめましたのでお知らせします。

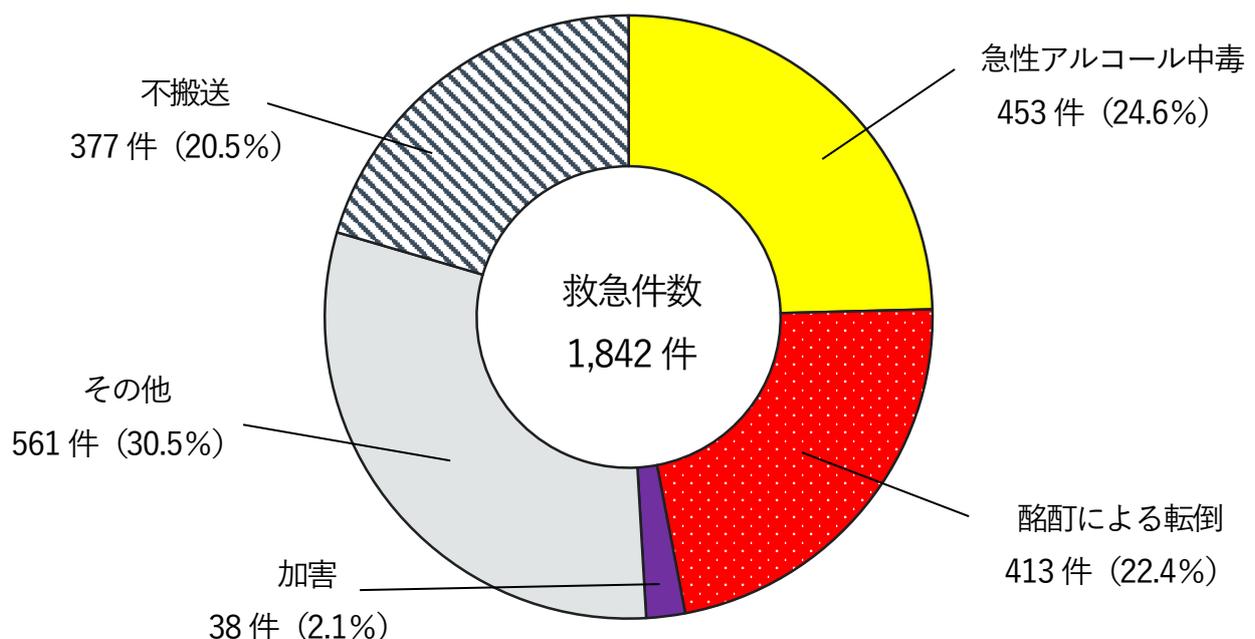
※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

1 事案別

救急事案別にみると、飲酒によって一時的な意識障害に陥る急性アルコール中毒が453件（24.6%）、酩酊による転倒が413件（22.4%）で、これらの合計で約半数を占めています。

また、飲酒トラブルによる加害行為による受傷は38件（2.1%）みられます。

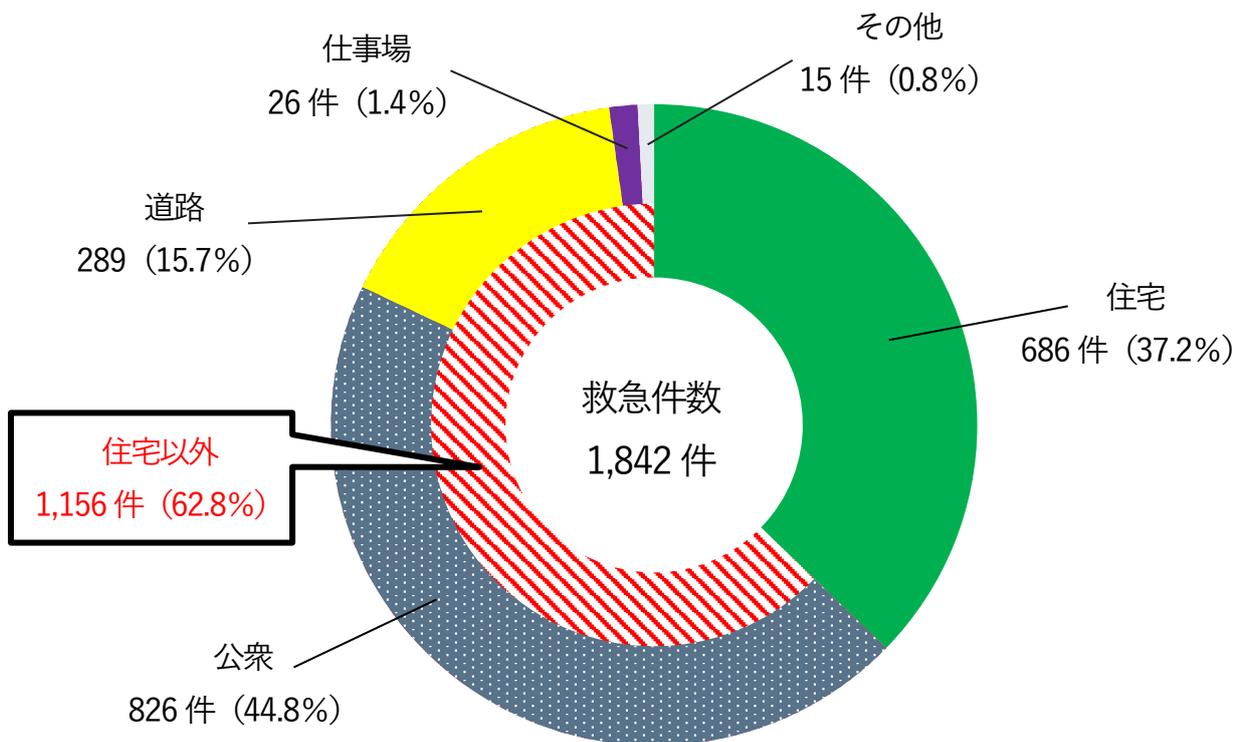
さらに、不搬送は377件（20.5%）となっており、過去5年間のすべての救急件数に占める不搬送の割合（10.0%）と比較し多いことがわかります。これは、単に泥酔し呼びかけに反応しなかったケースや、泥酔し眠り込んでしまったことで周囲が通報したというケースがほとんどです。



※ 「その他」は、低体温症や嘔吐による窒息、持病の悪化による急病など

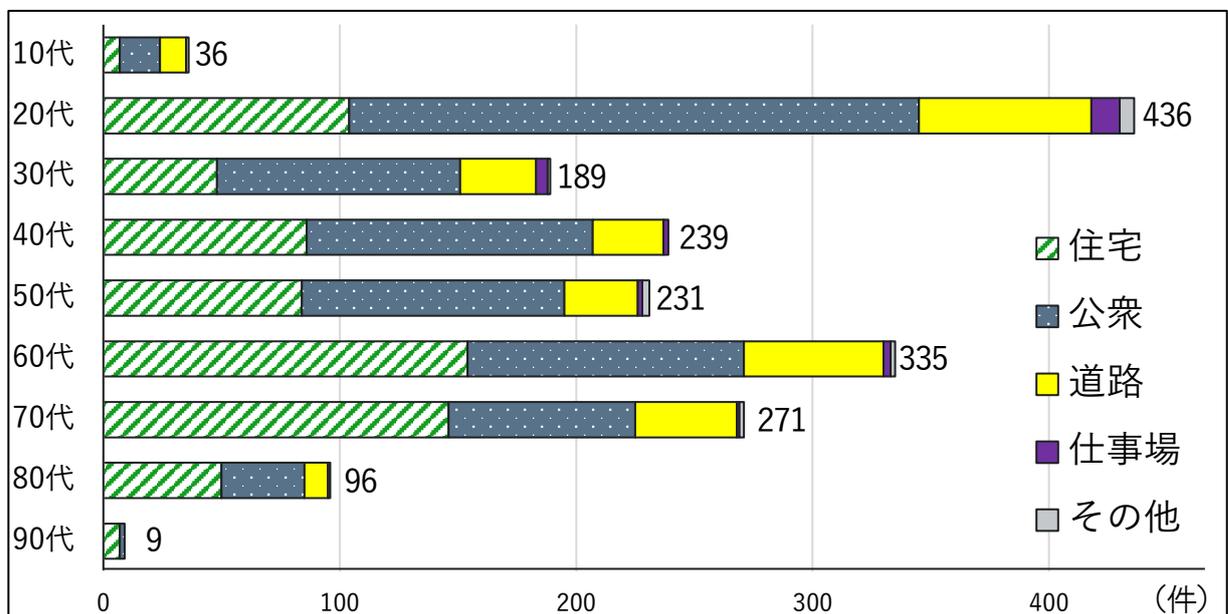
2 発生場所について

飲酒が関連した救急件数全体を発生場所別で見ると、住宅での発生は686件（37.2%）であるのに対し、公衆では826件（44.8%）、道路では289件（15.7%）と住宅以外での発生が半数以上を占めています。これは飲食店や、飲酒後の帰り道で発生したケースが多いためと考えられます。



3 年齢と発生場所について

過去5年間の飲酒が関連した救急事案は1,842件であり、年齢別で見ると20代が436件（24.2%）で他の年代と比較し最も多くなっています。

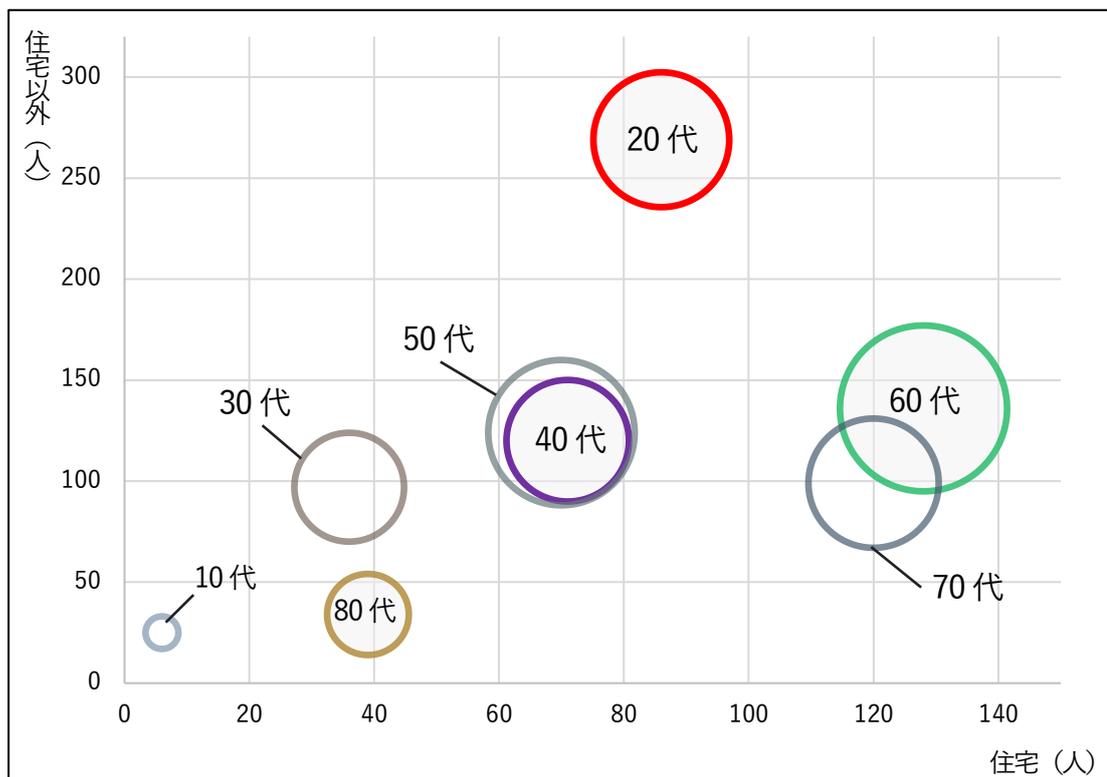


搬送者の年代ごとに発生場所の区分と重症度合を表すと、20代は住宅以外での搬送が多く、60代は住宅での搬送が多い傾向であることが分かります。

また、60代は円が大きいことから、全体として重症度合が高い人が多いことが分かります。

※ 円の大きさは、世代ごとの中等症以上の人数を表しています。

(90代は統計上軽症のみのためグラフに反映していない)



4 注意のポイント

- ◆ 新型コロナウイルスによる行動制限の緩和に伴い、自宅以外で飲酒する機会が増えると考えられるため、体調に合わせた適量の飲酒を心掛けましょう。
- ◆ 新年度が始まり、歓迎会など飲酒を伴う機会が増えると予想されるため、お互いに無理な飲酒などは控えましょう。
- ◆ 飲酒時は、周りの方は酩酊状態となった人に付き添って、一人にしないようにしましょう。